

芸術編集研究センター設立記念  
スーザン・ソントグ追悼シンポジウム  
ラディカルな意志の彼方へ向けて



# SUSAN SONTAG

BEYOND THE RADICAL WILL

© Annie Leibovitz

木幡和枝 (東京芸術大学先端芸術表現科教授)

浅田彰 (京都大学経済研究所助教授)

平野共余子 (慶応義塾大学非常勤講師)

アメリア・アレナス (芸術教育家)

福のり子 (京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科教授)

ゲストプログラム：坂本龍一 + 高谷史郎 (ダムタイプ)

モデレーター：後藤繁雄 + 小林昌廣

お問い合わせ： 京都造形芸術大学  
ASP芸術表現・アートプロデュース学科  
芸術編集研究センター

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116

TEL&FAX: 075-791-9382

<http://www.asp-k.com>

(伊藤悠、大木美智子)

2005年6月30日 (木) 13:00-17:00

場所：京都造形芸術大学 春秋座

入場無料、先着順

PRODUCED BY

**asp**  
京都造形芸術大学

2004 年末、一人の偉大な作家・批評家・劇作家・演出家・映画監督がこの世を去りました。その名は、スーザン・ソントグ。アメリカのみならず 20 世紀を代表するラディカルな存在を我々は失いました。彼女は、1964 年の「〈キャンプ〉についてのノート」以降、芸術の社会におけるあり方、その批評のあり方を根本的に問い直し続けることはもちろんのこと、社会それ自体の保守化・反動化に対し鋭い舌鋒と戦闘的実践をもって抗し続けました。世界情勢、革命、戦争、病、犯罪、メディア……。彼女は、そのどのジャンルをも超えて「問い」を発し続けたのです。911 以降、新世紀が戦争とテロの悪無限の中にもみれる時、彼女の存在と発言はきわめて人々の心をつき動かしたのです。

彼女は病にたおれ、ラディカルな営為は断ち切られましたが、大いなる遺産が残されたのです。我々はその「ラディカルな意志」をひきつぎ、アート之力、平和の現実、クリエイションとしての人生を創造してゆかなければならないと考えます。したがって、このシンポジウムは、スーザン・ソントグの死を追悼するとともに、彼女が果たそうとしていた「思想と行動」を再度検証し、我々の未来への道をさぐるための作業として構想されます。

(後藤繁雄/京都造形芸術大学 芸術表現・アートプロデュース学科長、芸術編集研究センター長)

## スーザン・ソントグ (1933-2004)

ハーヴァード、パリ大学で哲学を学んだ後、雑誌編集者をへて、「キャンプ論」(1964)や「反解釈」(1966)を発表、60年代のアメリカ文学の旗手として注目をあびる。文学、映画、美術、写真、政治、フェミニズムなど、20代から幅広く批評してきた。アメリカを代表する知識人の一人。近年ではイラク戦争への発言も精力的に行っていた。2004年12月28日、死去。主著に『ラディカルな意志のスタイル』(1969)『写真論』(1977)『他者の苦痛へのまなざし』(2003)など。

## 参加者プロフィール

### 木幡和枝

東京芸術大学美術学部先端芸術表現科・同大学院研究科教授、P.S.1 現代美術センター (ニューヨーク) 東京代表・客員学芸員。アート・プロデューサー。主な訳書にスーザン・ソントグ『この時代に想う—テロへのまなざし』『良心の領界』など。

### 浅田彰

京大経済学研究所助教授。経済学・思想史。1983年、『構造と力』を発表し、ポスト構造主義を中心とした思想を再構成する。主著に『逃走論』(1984)『映画の世紀末』『20世紀文化の臨界』(2000)など。

### 平野共余子

慶応義塾大学文学部久保田万太郎記念講座非常勤講師。映画史研究家。1986年より04年までニューヨーク市ジャパン・ソサエティーの映画上映プログラム責任者。ソントグの選ぶ日本映画シリーズを03年、04年の2回に渡り担当。主著に『天皇と接吻 アメリカ占領下の日本映画検閲』(1998)など。

### アメリア・アレナス

美術館教育プログラムの専門家。1984年から96年までニューヨーク近代美術館 (MoMA) の教育部講師として活動。同館が、5年の歳月をかけて体系化した「視覚を用いて考えるためのカリキュラム (VTC)」の責任者の一人。主著に『なぜ、これがアートなの?』(福のり子訳)など。

### 福のり子

京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科教授。キュレトリアル、鑑賞教育。ニューヨークで16年間、インディペンデント・キュレーターとしておもに現代写真の展覧会を手がけてきた。主な訳書・著書にアメリア・アレナス『なぜ、これがアートなの?』(1998)『美術館ものがたり—その歴史とドラマ』共著 (1997) など。

### 坂本龍一

1978年、高橋幸宏、細野晴臣とYMOを結成、テクノポップの世界的なムーブメントを牽引する。83年に散開。ソロ活動を通じてはエレクトロニクスとアコースティックを自在に融合し、独自の表現を確立。87年、『ラストエンペラー』でアカデミー賞オリジナル作曲賞、グラミー賞などを多数受賞。

### 高谷史郎

1984年、京都市立芸術大学の学生を中心に結成されたアーティストグループ「ダムタイプ」の創設メンバーとして活動に参加。ダムタイプのビジュアル・クリエイションを手がける。主な活動に、都市プロジェクト「STADSMARKERING - GRONINGEN」(1990)、坂本龍一氏のオペラ『LIFE』での映像制作 (1999)、中谷芙二子氏とのコラボレーション作品『IRIS』(2001) など。

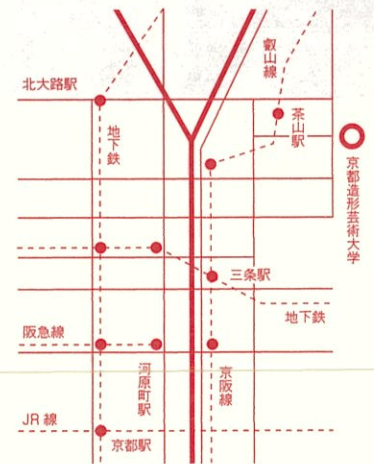
### 小林昌廣

京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科教授。同大学舞台芸術研究センター主任研究員。芸術生理学、医療人類学、舞踊美学。芸術・医療・哲学を中心に「身体」を捉えて独自の身体論を展開。主著に『病い論の現在形』(1993)『臨床する芸術学』(1999) など。

### 後藤繁雄

京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科長、芸術編集研究センター (RCES) 所長。編集者、クリエイティブ・ディレクター。編集を中心に、広告制作・企画・商品開発・web開発・展覧会企画など、ジャンルを超えて幅広く活動。主著に『五感の友』(2005)、『僕たちは編集しながら生きている』(2004) など。

このシンポジウムは、京都造形芸術大学に新しく設立された「芸術編集研究センター」の設立記念計画の一環として立案されます。「芸術編集研究センター」は、ASP (芸術表現・アートプロデュース学科) を母体とし、「アートの力を社会化してゆくための研究・アート展・キュレーションなどの実践の場をオーガナイズしていくこと」を目的に設立されています。



地下鉄北大路駅から

- ◆市バス 204 系統「上終町 京都造形大前」下車 出町柳から
- ◆市バス 3 系統「北白川別当町」下車北へ徒歩 5 分
- ◆市バス 3 系統「上終町 京都造形大前」下車
- ◆叡山電車  
「茶山駅」より徒歩 10 分
- 京都駅/三条駅から
- ◆市バス 5 系統「上終町 京都造形大前」下車 四条河原町から
- ◆市バス 3 系統「北白川別当町」下車北へ徒歩 5 分
- ◆市バス 3 系統「百万遍・上終町 京都造形大前」
- ◆市バス 5 系統「上終町 京都造形大前」下車

同時開催 2005年6月25日(土)～7月3日(日)

「スーザン・ソントグからはじめる」

テキスト、写真、書籍、年譜の展示 場所：京都造形芸術大学 1階ラウンジ

会場：京都造形芸術大学 春秋座  
〒606-8271  
京都市左京区北白川瓜生山 2-116  
京都造形芸術大学内 京都芸術劇場  
TEL: 075-791-9122 (代表)